

園内研修の手引き

～ときめく明日の保育のために～



本手引きの活用法

本手引きでは、各幼稚園や保育所、認定こども園において、園内研修を企画立案、実施していく際の参考となるよう、研修の進め方やポイント、視点や例を記載しています。

また、各施設における研修リーダー（園長・所長、副園長・副所長、教頭、主任など）が主に活用できるように、必要事項とともに、考え方を解説しています。

本手引きの趣旨を、園長・所長、副園長・副所長、教頭、主任の立場にある方々が共有し、園内の保育者が、喜んで研修に参加し、自分たちの資質を向上させていく「園内研修」のガイドブックとして活用されることを願っています。

※「園内研修」とは、幼稚園や保育所、認定こども園等、乳幼児の教育・保育を行う施設内において、保育者が自ら行っていく研修をさしています。

目 次

第Ⅰ章 研修リーダーはあなたです

- 1 1年間の園内研修の計画を立てよう・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 研修の方法を工夫しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 だれもが意見を言いやすい研修にしよう・・・・・・・・・・・・ 12

第Ⅱ章 子ども理解を深めよう

- 事例1 遊び（ルール）を決めるのはだれ？・・・・・・・・・・・・ 17
- 事例2 表現することを楽しむようになる・・・・・・・・・・・・ 19
- 事例3 体力づくりと待ち時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 事例4 リレー遊びとリレー競技・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 事例5 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿・・・・・・・・・・・・ 25

第Ⅲ章 指導計画をたてよう

- Q1 なぜ、教育課程と指導計画の作成は必要なのですか？・・・・・・・・ 28
- Q2 明日の保育（日案）を考える時、大切なことは何ですか？・・・・・・・・ 30
- Q3 ねらいと内容はどのように設定すればいいのですか？・・・・・・・・ 38
- Q4 環境構成と保育者の援助を考える時に、大切にすることは何ですか？ 40
- Q5 保育をする際に大切にすることは何ですか？・・・・・・・・・・・・ 43

第Ⅳ章 ベテラン保育者の方々へ

～新規採用保育者が育つとき～



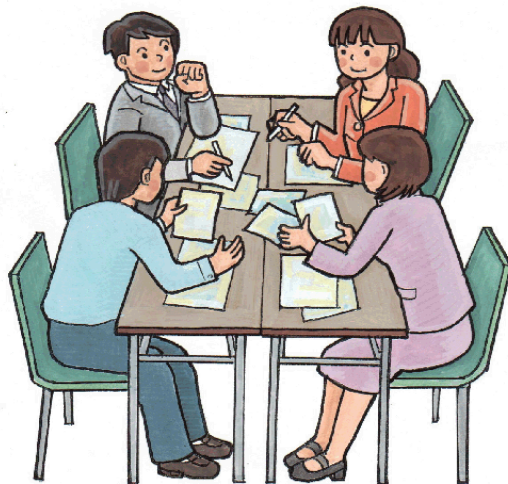
S 幼稚園の園内研修の 1 コマ

第I章

研修リーダーはあなたです

子どもたちの発達をつないだり、様々な職員の個性や経験を向上させたりしながら、良質な教育・保育を提供していくために大きな役割を担っているのが、「研修リーダー」です。

第I章では、研修リーダーが園内における様々な研修を進めていく際のポイントや例を示します。



I-1

研修リーダーはあなたです

1年間の園内研修の計画を立てよう

各幼稚園や保育所、認定こども園によって、地域性や物的環境、人的環境は異なります。その年の職員構成や地域や家庭の特性などから、園の強みと弱みを整理し、園目標に沿って研修のねらいと方法について考えましょう。

1年間の研修のねらいや重点を設定しよう

※自分の園の実態や特性を整理して、研修のねらいを設定しましょう。

園の目標		
	長所だと思うところ	課題だと思うところ
子どもたちの実態は？		
遊びの様子は？		
園内の物的環境は？		
保育者・職員の様子は？		
地域の様子は？		
家庭の様子は？		
その他		

★ 若い保育者が多い等、保育者の保育観を広げたい園なら

- ・ 気になる子どもの内面理解を深める
- ・ 保育者が嬉しいと感じた子どもの姿から、遊びこむ援助について考える
- ・ 研究保育から、ねらいに沿った保育者の援助について考える など

★ 園庭や園舎の広さや立地状況などに特徴があり、遊びを充実させたい園なら

- ・ 遊びマップや園庭マップをつくりながら、何を楽しんでいるのかを探る
- ・ 期や月ごとの主な遊びの環境構成を考える
- ・ 畑やテラス、廊下や共有スペースの生かし方などについて考える など

★ 園児数や学級編成などに特徴がある園なら

- ・ 異年齢のつながりが充実するような遊びの環境構成について考える
- ・ それぞれの学級の悩みなどを出し合い、解決していく など

★ その他にも

- ・ 小学校教育とのつながりから、乳幼児期のふさわしい生活を考える
- ・ 園行事の在り方について考える
- ・ 育ちがより伝わる学級通信や学級新聞の在り方を探る
- ・ 写真から、子どもたちの楽しんでいることを探る
- ・ 教育課程や指導計画を見直す
- ・ 継続できる記録の取り方を考える など



※ 今年度のねらいから「研修テーマ」と「研修方法」を設定しましょう。

- ねらい（例 だれ・何が、どうなるように）
- 研修テーマ（育みたい力、願う子ども像、目指す保育者像など）
- 研修方法（例 ～な研究保育をする、～な事例研修をする、～な資料作成をする）



園内の全ての保育者が研修のねらいを共有し、見通しがもてると、研修への主体性が生まれます。よく目にできるところに「研修のねらい」や「計画表」等を貼っておくとよいでしょう。

★ 園内研修の予定表（Y幼稚園の職員室掲示板より）



今年の園内研修のテーマ 遊びこむ子どもの育成

- 4月 願う子ども像とねらいの共有、研修計画
- 5月 A保育者の研究保育
- 6月 事例研修（3歳児Mくん、4歳児水遊び）
- 7月 B保育者の研究保育（K大学M教授来園）
- 8月 春と夏の遊びマップづくり
- 9月 運動会のねらいと環境構成について、事例研究（5歳児リレー遊び）
- 10月 C保育者の研究保育（T保育所来園）
- 11月 教育委員会指導訪問（若年研修D保育者）、秋の遊びマップ、T保育所へ保育参観
- 12月 教育課程・指導計画の見直し、評価について
- 1月 事例研究（3歳児異年齢交流）
- 2月 冬の遊びマップづくり
- 3月 修了式や進級に向けての生活のねらい

冬休み前から冬休み中の園内研修・仕事について

11月28日

○園内研修の予定

12月22日午後	教育課程・指導計画の見直し	前日までに見直し赤書きしておく
27日午後	2学期の取組について（事例） 学級経営案自己評価 （データは現教フォルダに有）	前日までに配布しておく 各自読んでおき、意見が出せるように 現教テーマに沿った事例（A4 1枚） 3学期に取り組みたいことの事例等
26日締切	学級の子どもたちへ年賀状の作成	
1月13日午後	指導要録（幼児の評価について）	各自1名分作成し前日に配布しておく 各自読んでおき、意見が出せるように

○年度末に向けて

- ・3学期の会計計画（1月16日まで）と、報告（3月15日まで）
- ・個人記録の整理（2月末まで）

研修の進め方を示すことで、職員が安心して研修に望むことができるようになります。園の実態に合わせた研修の進め方について話し合い、共通理解しましょう。

保育カンファレンスの進め方

○実施日時

- ・一週間に1度 水 or 木曜日
- ・14:30～14:40 終礼(連絡事項のみ)
- ・14:40～15:00 終了 カンファレンス

○事例提供者

- ・記入したカンファレンスシートを、月曜日に配布する。
- ・1回につき一人ずつ行う。

○記録者

- ・次回の事例提供者がシートに記録する。
- ・現教ファイルに綴じる。

○その他

- ・月曜日に配布されたシートを読み、考え等をもっておく。



○キーワードを記入する

- ・嬉しかったこと
- ・困ったこと 等

○事例の分類を記入する

- ・特別支援教育
- ・幼児理解
- ・環境構成 等

保育カンファレンスシート

○キーワード

()

いつ	どこで
だれが	
なにを	
どのように	
なぜ	

【話し合しましょう】

○子どもの思い

○保育者のかかわりや環境構成

I-2

研修リーダーはあなたです

研修の方法を工夫しよう

在園児の保育時間の多様化や長時間化等にもなっていて、保育者の勤務形態が複雑になり、園内研修の時間が取りにくくなっています。そのような中、園の実態に合わせて、研修方法を工夫しながら取り組んでいる幼稚園や保育所、認定こども園があります。

いくつか紹介します。是非各園の実態に合わせた研修を進めていく際の参考にしてください。

フォトカンファレンス

Kこども園

〈研修の流れ〉

子どもたちが夢中になっている場面を、様式（タイトル、吹き出し、コメント）に沿って記入する。



記入した様式を回覧する。



他の職員は、付箋に感想や考え等のコメントを書き、張り付けていく。



写真とコメントを見合いながら、子どもたちの楽しさについて協議する。



ファイルに綴じたり、保護者に見えるように掲示したりする。

◆木工コーナーでの様子

—タイトル—
『トントントン！こんなのできるとうれしいなあ』 28年 5月17日 9・4歳児 自・横

「難しかったけど、何回やってもできん...でも、ぜったいにこころぎをうちたいんやあ...はあ...指をたいてしまった...!」

「一人じゃできんかったけど...押さえてもらったらこころなはうまくできんやあ...ありがとう!」

「ここ...ぎゅっと押さえといてな! よしよし今度はうまくいきそう!」

「最初はできたから話を作るよ! かつらいい目になるんやあ!」

「結果を取ったら面白い色になったなあ...」

「子どもたち自給さんみだいにやってみよう!」

—コメント—
新しい材料・道具との出会いにワクワクしながらかわっていった子どもたち。自分たちで考え、工夫し協力しあいイメージを出し合う家がたくさん見られた。ぐの抜き方もぎと本の長さの調べ方も子ども同士で教え合っていた。次の日、木工コーナーに興味はあるものなかなかなチャンスが無かった4歳児。本屋さんがなくなったのを待っていたかのようにトントントン（釘打ちを楽しんでいる姿があった。担任と会話を交わしながらゆったりと木工コーナーでトントントンやっていた。次に材料が集まった時「こんなことしてみたいなあ」と思いを込めているのだろう。

【職員間で楽しさを共有】

- ・年少児も真似をして、ボンドを使って作っていました。年中・年長さんはしっかりと作りたい物のイメージがあってステキです。
- ・「トントントン」と音が聞こえてくると「おっ！今日のはじまったなあ〜」と私までひそかにワクワクしてつい覗きに行ってしまう。すごく楽しそう。
- ・初めての釘打ちですごくコツをつかめていた子が多くびっくりしました。送迎時お家の人も「どんな木が使いやすい？」など考えてくれて材料を提供してもらってうれいです。
- ・隙あらば...って感じでしょうか？桃組は桃組の世界があるみたいです。

「様式と書き込みの例」



写真を使うと、子どもの様子が見えやすく、楽しんでいることが想像しやすくなりますよ。コメントもしやすいです。

同僚からのコメントが、たくさんもらえるようになって、嬉しかったです。「もっともっと知らせたい」と思うようになりました。

そのまま掲示することができるので、保護者の方にも関心をもっていただける機会になりますよ。



〈研修の流れ〉

園内図の各学年の今週の遊びの様子を書き込む。



今週の子どもたちの興味や楽しんだこと、体験について話し合う。



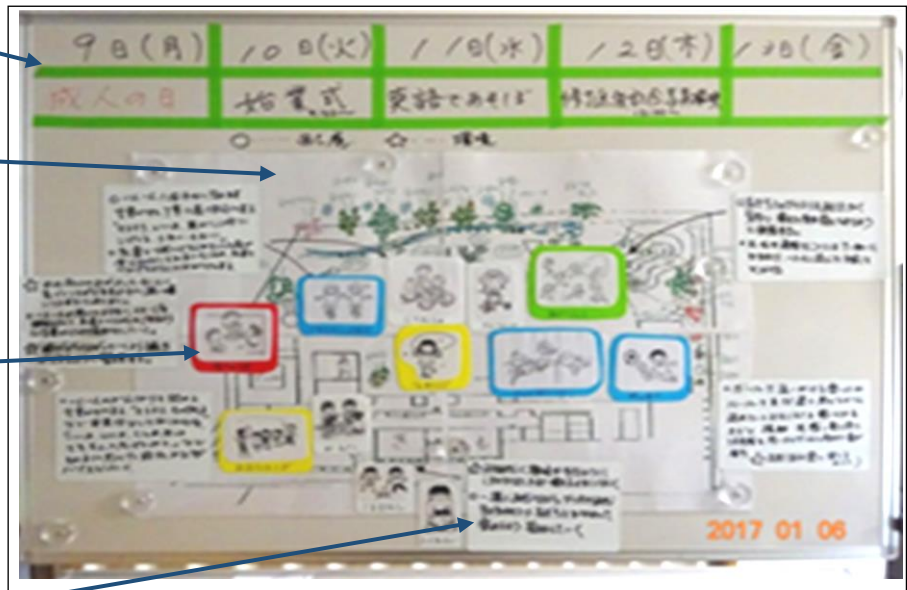
次週のねらいを設定し、ねらいに沿って環境構成を話し合い、記入する。

来週の日付
主な行事など

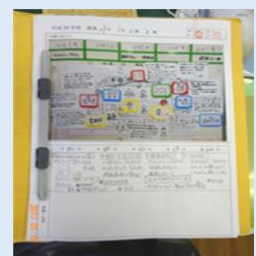
園内環境図

予想される遊び

遊びこむ姿を引き出すための援助の工夫 (○) や
環境の工夫 (☆)



ホワイトボードを見ながら、今週の子どもたちの関心を広げるようにねらいが設定でき、環境や具体的な援助についての週案がたてられるようになりました。



全学級のねらいがよく分かり、全保育者がどの子どもも受け入れながら保育ができるようになったので、異年齢のかかわりがとても充実しました。

これまでには気づけなかった空間のよさや、使い方等について再認識することができました。



〈研修の流れ〉

「自分の園のいいところ」「見えてきた課題」を付箋に記入する。



付箋を出し合いながら、詳しく説明する。



話し合う中で気づいたことを、再び付箋に記入する。



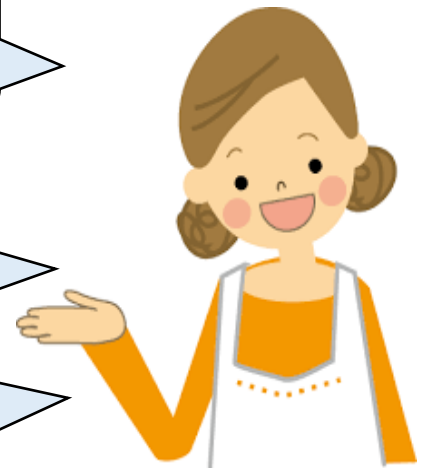
研修室等に掲示する。



在園時間は短いのですが、正規の保育者の人のように、私も保育者として資質を向上させたいと思っていました。実現できて嬉しいです。

いろいろな保育者の子どもたちへの思いを知ることができて、一緒に保育することがますます楽しくなりました。

付箋に書いた内容をきっかけに、担任の先生とお話しが弾むようになりました。子どもたちの遊びの環境や援助についての会話が増えました。





〈研修の流れ〉

園内研修のテーマや保育のねらいに沿って「参観シート」を作成し、参観者に配布する。



保育を参観する。気が付いたことなどを「参観シート」にメモする。



「参観シート」の書き込み等をもとに協議する。

平成29年 月 日 幼保こ小合同研修会 幼稚園【5歳児 組】 参観シート 所属 _____ 名前 _____

ねらい	グループの友だちと目的に向かって考えを伝え合いながら、すぐろくのコースを作っていくおもしろさや手応えを感じる。			接続期前期 園・園の 内容では？ (表裏参照)
評価	環境・状況づくり	教師の支援	子どもが経験したこと・育ち	➡
本日の保育	自分の考え、友だちの考えをわざわざいくつもの場面で話している。			
	相手の思いや考えを最後まで聞き、相談しながら進んでいる。			

◀幼稚園から小学校へのなめらかな接続のために▶ ※下記の視点で討論を行います。ご協力をお願いします。

◇今日の活動で期待される学びの芽生え◇

◆小学校生活へつながる学びの視点◆

参観シートの例



保育を見る視点が明確になって、保育の中の子どもたちの育ちや保育者の援助の意図がよく見えました。

協議の際に、どの視点を深めているかが参加者が共有できるので、意見が言いやすかったり、理解しやすかったりします。

感想を言い合うだけの協議に終わらず、視点に沿って自分だったらどのような環境や援助をするか等、自分事として考えることができます。

- 園内研修の終了時間を決めて、短い時間の研修を積み重ねている園もあります。
- また、学年団会、主任会、若年会、臨時職員会など、目的や実態に応じて参加者を工夫しながら実施している園もあります。
- 外部から指導者を招き助言をいただく機会をつくることによって、新たな見方を得ることができます。

I - 3

研修リーダーはあなたです

だれもが意見を言いやすい研修にしよう

「若い先生が、いつも意見を言わない」「特定の人ばかりが意見を言ってしまう」
「沈黙が怖くて、順番に指名してしまう」「園長先生が熱く語るほど、何も言えない」
園内研修を進めていく際、時折聞かれる課題です。

研修は、自ら主体的に学ぶ保育者を育成するために行うものですから、研修の時間だけが大切なわけではありません。研修に参加する前に、「何を話し合うのか」「どのような方法で話し合うのか」などを知らせ、保育者一人一人が自分なりの考えや経験をもって臨めるようにしておくことが大切です。



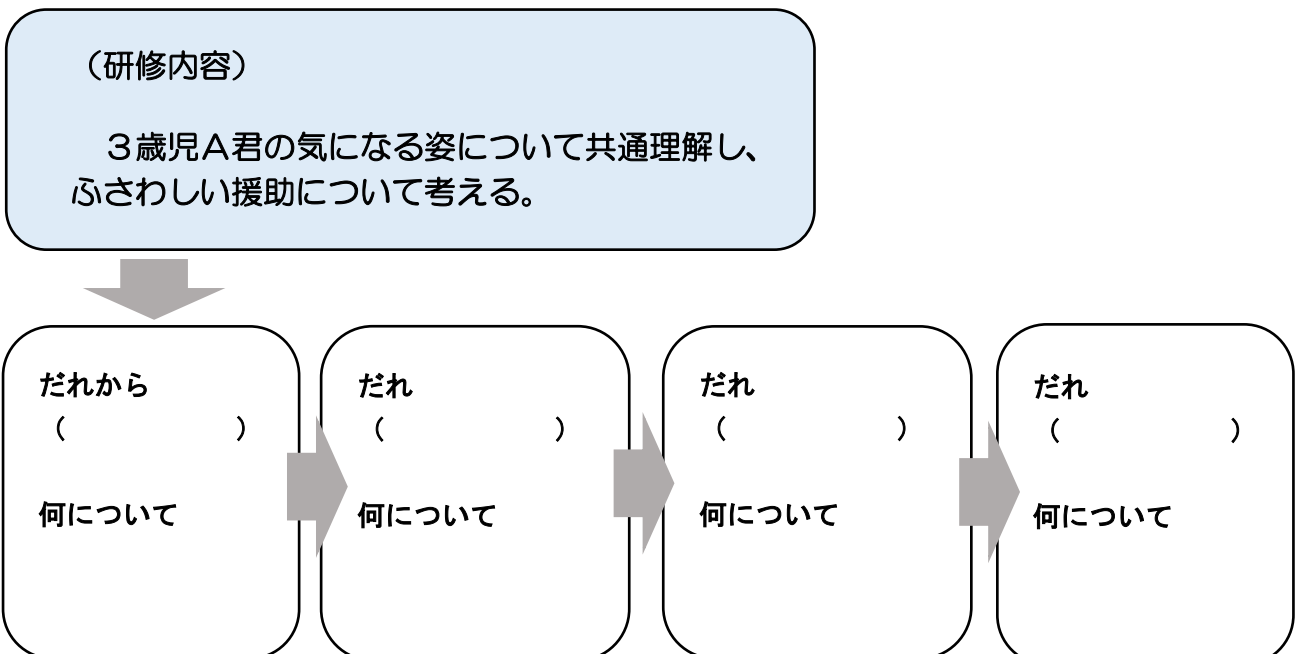
意見を言いやすい雰囲気をつくろう

順番に指名してしまうと、参加者は頭の中で自分の考えをまとめることばかりにとらわれて、周りの意見を聞くことが難しくなります。また、自由に発言を求めるだけでは、沈黙が続くこともあります。

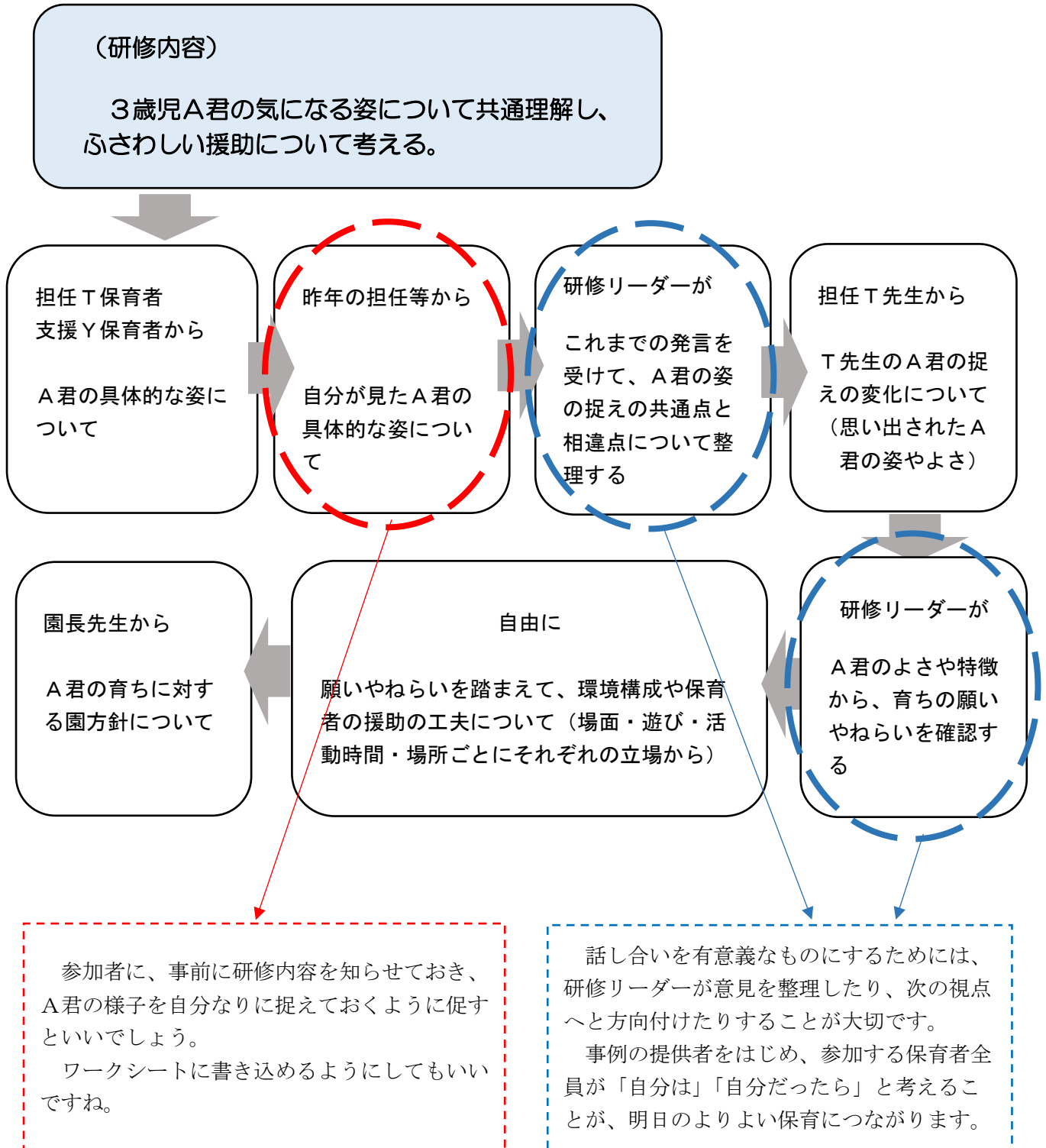
研修を進めていく者として、研修の内容についてよく知っている者とあまり知らない者がいることを把握し、「だれから」「何について」発言を求めるといいかを考えてみましょう。

★ あなただったら・・・？

次のような研修内容の時、あなたの園だったら、誰から、どのような発言を求めますか？



※ おおまかな発言の順（例）



意見を言うためには、まず、話し合う内容や状況などを知っていることが大切です（「〇歳児の保育室に遊びに来た時は～だったよ」「昨年は～だったよ」など）。
同僚からの意見はとても重要な情報です。多面的・多角的な角度から、情報が得られる風通しのよい雰囲気をつくりましょう。

第Ⅱ章

子ども理解を深めよう

第Ⅱ章では、子ども理解や保育者のふさわしい援助などについて考えを深めていただくために、園生活の中でよく目にする遊びや活動での一コマを取り上げ、保育の本質に迫る視点から問いを示しています。ぜひ、園内で議論してみてください。



Ⅱ - 1

子ども理解を深めよう

遊び（ルール）をつくるのは、だれ？

4歳児。帰りのひととき。

クラスみんなで集まってフルーツバスケットを楽しむことになりました。昨日の経験から、子どもたちはおおまかなルールと楽しさが分かっていて、とてもわくわくしています。

「パイナップル！」

A保育者の声でゲームがスタートした。パイナップルのペンダントを付けた子どもたちが、一斉に「わあー！」と席を立ち、空いた席へ移動する。席が見つからず、輪の中央に立ったM子。しばらく考えて、「いちごとみかん！」と笑顔で言った。

すると、A保育者がM子に向かって「Mちゃん、一つ（のフルーツ）しか言っちゃだめよ」と言った。M子は、小さな声で「みかん……」と言い直す。

みかんのペンダントを付けた子どもたちのうち2・3人は、M子の声が聞き取れなかったのか座ったままである。A保育者に「〇〇くん、みかんだって。動いて」と促されて、ようやく移動を始める。

【話し合ってみましょう】

- ★ A保育者に「だめよ」と言われたM子やそれを聞いていた子どもたちは、どんな気持ちになったでしょう。
- ★ あなただったら、Mちゃんや周りの子どもたちにどのような言葉をかけますか？

【話し合った内容】

「いちご」「メロン」など、鬼の言葉に従って、子どもたちは席を移動している。ぶつかったり、席を取り合ったりなどのトラブルは起こらず、ゲームを始めた頃のわくわく感が静まってきたように感じる。

10回ほどゲームが進み、J君が5回目の鬼になる。「フルーツバスケット！」の自分の一言で、友だちが一斉に動き出すのがおもしろいのか、空いている席が目の前にあるのに座ろうとしないのが、ありありと分かる。そんなJ男に対し、数人の子どもたちが「J君、ちゃんと座りなよ」「面白くないわ」と言う。A保育者からも「一生懸命にしないと、みんな面白くないみたい。次からはちゃんと席をかわろうね」と言われて、J男は小さく頷いた。

その後、しばらくゲームが続いていった。

やがて、A保育者と支援保育者が、これまでには無かった「スイカ」になった。子どもたちは新しいフルーツが加わったことに歓声をあげる。

【話し合ってみましょう】

- ★ あなただったら、J君にどのようにかかわりますか？
- ★ フルーツバスケットなどのゲームを楽しむ際に、あなたが心がけていることは何ですか？

【話し合った内容】

【考え方として】

A保育者の目は、子どもたちにゲームのルールを守らせること、トラブルが起こらないようにすることに向いている。それゆえ、M子の言葉やJ男の姿が、課題のある姿に映ってしまうのだろう。

子どもたちが、フルーツバスケットのゲームの中で楽しんでいることは何だろうか。鬼になった友だちの言葉を聞いて瞬時に動き出すことや、移動する（できない）スリル、鬼になって自分が言葉を発した瞬間に友達が移動することなど、ゲームの本質を十分楽しんでいる。だからこそ、回を重ねるごとに、M子のように、鬼になった時に発する言葉に変化をつけようとし始める。「フルーツバスケット」の言葉以外に、多くの人が動く方法を自分なりに考え出したM子。この言葉の面白さや工夫する姿を感じ取り、喜べる保育者でありたい。

J男のような行動が見えた時、ルールを守っていない姿に注目してしまうことはあるだろう。しかし、「なぜ、このようにしたのか」と温かく受け止めることで、子どもたちが遊びの中で何を楽しんでいるのかに気付けることは多い。J男もM子と同じように、たくさんの友だちが動く瞬間を楽しんでいると捉えることができる。「面白くするために言葉を変化させるといいかもしれないね」「他にもどんな言い方があるか探してみよう」と、みんなで考え、ルールを作り上げていく場を保育者が設定する中で子どもたちの育ちは大きい。

本事例では、保育者が「スイカ」となって参加することで変化し、楽しんだが、ぜひ、子どもたちが、自らルールを変化させ、作り上げていく充実感こそを体験させたいものである。

Ⅱ-2

子ども理解を深めよう

表現することを楽しむようになる

もうすぐクリスマス。

3歳児ひまわり組では、みんなで自分のクリスマスツリーを作ることになりました。

H保育者に名前を呼ばれた子どもたちは、一人分のビーズと松ぼっくりが均等に入れられたビニル袋を受け取りに行く。子どもたちが席に戻ると、自分のプリンカップの中にビニル袋中の材料を入れるように指示があった。

金と銀の松ぼっくりが一つずつとビーズが10個入っている。木を型どった台紙にボンドで張り付けていくようである。H保育者が、自ら作った素敵なクリスマスツリーを見せながら作り方を説明する。

ツリーづくりが始まった。しばらくして、R男がH保育者のそばへ行き「ぼく、できない」と言う。H保育者は、R男を席まで連れて行き、励ましたり、アイデアを引き出そうと質問したりしている。しかし、R男の手はなかなか動かない。

しばらくして、H保育者は「R君、作りたくなったら作ってね。それまで、お友だちを見ていていいよ」と声かけ、他の子どもたちにかかわり始めた。

隣のさくら組でもクリスマスツリーを作っています。クリスマスツリーの台紙は、ひまわり組のものと同じです。

4～5人ずつの子どもたちが座っている机の上に、大きなお皿が3つ置かれている。それぞれ、松ぼっくりとビーズ、ボンドが入っている。

担任のY保育者が、自分が作ったクリスマスツリーを子どもたちに見せながら「先生ね、こんなクリスマスツリーを作ってみたの。素敵でしょ。みんなもつくってみない？」と呼びかける。子どもたちは「つくりたい」と言いながら、早速、松ぼっくりやビーズに手を伸ばして始めた。

しばらくして、E男が「先生、ビーズが足りない」と大きな声で伝えた。ツリーの緑の面が見えなくなるほどボンドが付いていて、飾りが埋もれているが、E男は満足そうである。Y保育者は「まあE君、いっぱい飾りがついたね」と言いながら、お皿にビーズを足していく。

「ぼく、まだまだ付ける」「〇〇君みたいにいっぱい付ける」と言いながら、ビーズに手を伸ばした。

【話し合ってみましょう】

★ R男とE男の姿の違いは、H保育者とY保育者のどのような援助から生まれたのでしょうか？

【話し合った内容】

【考え方として】

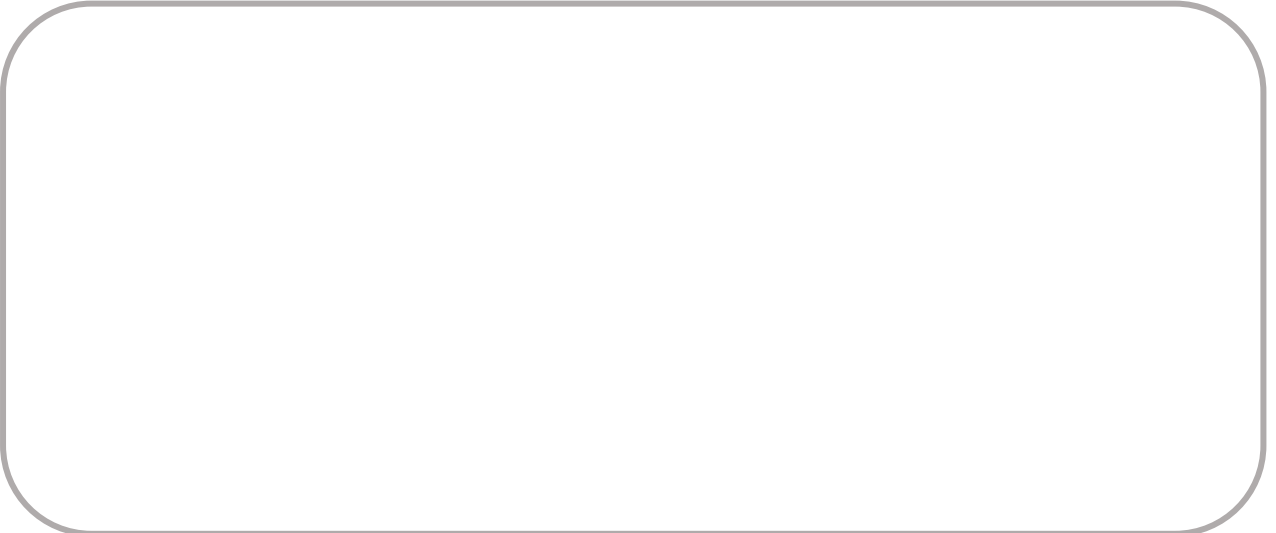
「ぼく、できない」と言ったR男。これからやろうとすることと自分の力（経験）との間にギャップを感じて、不安になったのだろう。先生の素敵なクリスマスツリーと同じように作らなくてはならないと思ってしまったR男。みんなと同じ材料は、「みんな同じようにできるはずだよ」というメッセージとなり、丁寧な作り方の説明は、保育者が言った通りの過程をたどらなければならないというプレッシャーを与えてしまったようである。

一方、さくら組の子どもたちは、Y保育者の「つくってみない？」の言葉かけとともにツリーを見たことで、作ってみたい意欲が生まれている。机の上に無造作に置かれたたくさんの材料は、「何を、どのように、いくつ付けるのか、自由に作っていいよ」「作り方や完成の形は多様にあるよ」というメッセージとなり、子どもたち一人一人が自分らしさを発揮しながら作っていく姿につながったと考えられる。大人から見た出来栄のすばらしさではなく、楽しく作っていく経験や、友達のよさに気づいて工夫しようとする姿こそを大切にしたいというねらいがY保育者の環境構成と援助の中に表れている。

【「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」から関連する部分を探してみましょう】



【この事例を通して学んだことや生かしたいことを書きましょう】



Ⅱ - 3

子ども理解を深めよう

体力づくりと待ち時間

T保育園では、新聞などで示される現代の子どもたちの体力に関する調査結果や、転んだ時に顔にけがを負ってしまう園の子どもたちの実態などから、熱心に体力づくりに取り組んでいます。

1 1月中旬、2歳児クラスではマットや平均台や滑り台でつくったコースを巡って多様な動きをさせる遊びが取り入れられていました。

2歳児うさぎ組は、24人の子どもたちと4人の保育者のクラスである。保育室には、ままごとやパズル、ブロックや工作など、子どもたちが思い思いの遊びに十分取り組めるようコーナーが配置され、それぞれのコーナーに保育者が一名ずつかかわっている。

保育室の出入り口に置かれた6つの椅子に子どもが座り、上靴と靴下を脱いでいる。遊戯室へ行くようだ。貨物列車の歌を歌いながら廊下を歩き、遊戯室へ。遊戯室には、マットや滑り台、平均台などを並べた小さなアスレチックコースが作られており、とても楽しい雰囲気である。

子どもたちは、まず、遊戯室の壁際に並べられた6脚の椅子に腰かける。先生から注意事項を聞き、先生がやるのを見る。「やってみたい人？」と問われ、2人の子どもが手を挙げた。指名を受けたU男が、アスレチックに挑戦。「U君、上手！上手！」と保育者に励まされながらU男は進んでいく。コースの真ん中まで来た頃、先ほど挙手していたS子が保育者に招かれ、スタート位置に立った。保育者の「スタート」の合図でS子もスタートする。

同じように6人の子どもたちみんなが一回ずつアスレチックコースを回ると、保育室へ帰っていった。

保育室の出入り口では、次の6名の子どもたちが、椅子に座って待っていた。

【話し合ってみましょう】

- ★ あなただったら、コースに挑戦しているU君や周りの子どもたちにどのような言葉をかけますか？
- ★ 幼児期の子どもたちにとって、体力づくりの基盤とはどのようなものでしょう？

【話し合った内容】

【考え方として】

体力づくりに視点を置き、アスレチックコースという環境が構成されていた。しかし、子どもたちがコースに挑戦する機会はとても少なかった。一方、じっと座って待つ時間はとても長かった。

それでも子どもたちは、一回のコース巡りの中で楽しさを見出していた。高いところに上ったり、細い道を歩いたり、くるっと体を回転させたり、坂を滑ったり、その子なりに楽しさを見出していた。しかし、保育者の目は、けがをしないようにコースを終えさせることや、次の6人とタイミングよく交代させることに向いていて、子どもたちの思いを感じることは及んでいない。

11月も中旬。けがをさせないよう、細かく配慮していくことは大切であろうが、4か月後、3歳児クラスへ進級することを意識し、主体的な遊びの中では、子ども6人に対して保育者が必ず一人付かなければならないという考え方が柔軟になっていくことを願う。

保育者の目が、子どもたちの体を動かす楽しさや、繰り返し取り組む充実感、そして、安全について子どもたちが自ら考える育ちに向けていくことは大切だろう。お迎えにきた保護者と、「〇〇ちゃん、今日こんなことがとっても楽しくて、何度も挑戦したのですよ。お話聞いてあげてくださいね」と心の成長について会話が弾む保育を展開したい。

【「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」から関連する部分を探してみましょう】



【この事例を通して学んだことや生かしたいことを書きましょう】



Ⅱ-4

子ども理解を深めよう

リレー遊びとリレー競技

9月上旬。まだまだ日中の日差しは夏のようにです。夏休みが明け、大勢の友だちといっしょに遊べるのが嬉しくて、5歳児の子どもたちは朝からリレーを楽しんでいます。

保育者は、10月に運動会が控えていることから、リレー遊びが運動会へとつながっていくように支えていきたいと思っていました。しかし、リレーに参加する子どもは多いのに、遊びが続きにくい実態が悩みでもありました。

二人ずつジャンケンをして、チームに分かれている。ペアによっては、ジャンケンそのものが楽しくて何度も続けて勝ち負けが分からなかったり、ジャンケンせずに並んだりしている子がいる。

走ること。だんだん速くなってきていることがうれしいようであり、エンドレスで走る。

途中「どっちが勝っているの?」という言葉が聞かれ、友だちと競い合うことを楽しみ始めているようである。相手チームとの人数が全然違っていてもリレーは続いていて、人数を調整して、勝敗を競おうとする動きは出てこない。去年の5歳児の様子を見ているからか、アンカーたすきを付けている子はいて、赤と青のバトンもそれなりに引き継がれていっている。

T男が赤いバトンを受け取り、走り始めた。走り方が力強くなった。自分がバトンをもらった時に前方を走っている友だちを「抜かした」と喜び、B保育者に伝えている。

青のたすきを付けた人がゴールすると、青チームの子どもたちは喜びを表現する。赤チームはまだ、これから走る子が数名いるようである。青チームの子どもたちは、すでに次のチーム分けのジャンケンを始めていて、中には赤チームの子どもも混じっている。赤チームの友だちがまだグラウンドを走っていることに、思いが及んでいないことが見て取れる。

T男が、「おかしい、おかしい。赤チームが負けるなんて!」と怒っている。B保育者は立ち止まり、T男の言葉に耳を傾けている。

「みんな、集まって。T君が、みんなに大切なお話をしたいんだって」と言う。リレーに参加していた子どもたちがT男の周りに集まってくる。

【話し合ってみましょう】

- ★ ジャンケンをしている時や走っている時、T男から「抜かした」と伝えられた時や赤チームだけが走り続けている時、T男の言葉をきっかけにみんなが集まった時など、あなただったらどのようなかかわりますか?

【話し合った内容】

【考え方として】

B保育者のかかわりの中に、子どもたちにリレーのやり方やルールをすぐさま理解させ、正しく競技させようという気持ちは全く感じなかった。むしろ、厳しい残暑の中で体を動かして遊ぶこと、走ることを子どもたちが面白いと感じ、自ら取り組む遊びとなるようにしようとしていた。それゆえ、「走ることが楽しい」子どもの姿と、「運動会に向けて競技としてのリレーにしていきたい」自分の思いの間にあるギャップに悩んでいた。しかし、まずは「走ることを楽しんでいる」子どもの姿を大切にするとB保育者だからこそ、少しずつT男のような走り方の成長がみられるようになったと考えられる。

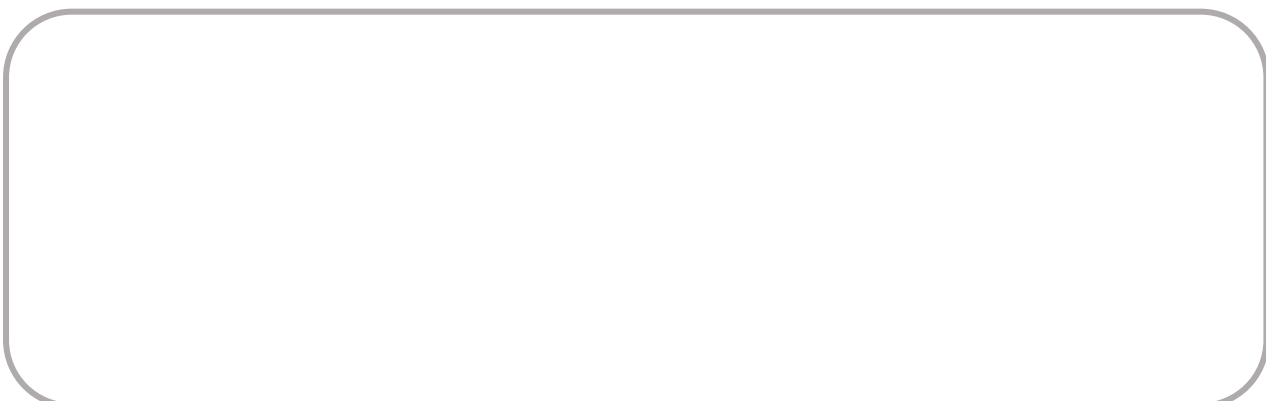
チーム分けの意識や必要性を感じていないものの、周りの雰囲気を感じてジャンケせずにも周りの友だちと同じ動きでチームに加わったり、相手チームとの勝敗を意識して走ろうとしたり、友だちを感じて動き出していることが分かる。バトンやアンカーたすきは、これまで見てきたリレーの雰囲気を再現しようとしている姿として捉えることができる。9月上旬、まだ、アンカーの意味や勝敗を決める必要性を感じていない段階であるのならば、アンカーたすきも不要な環境となっているのかも知れない。まだまだ、チーム対抗の勝負の意識は芽生えていない時期。運動会の競技としてのリレーに向かう過程の、繰り返し自分が走る姿を楽しむことを、無理に修正してはならない。

T男のように、勝敗がつくことやチーム対抗で勝負していくことへの意識が出てくる瞬間が生まれてくる。そのような時にこそ丁寧に取り上げ、子どもたちが必要感を感じて取り入れるようにすることが大切だろう。そしてその中で、勝敗をつけることだけではなく、友だちとバトンをつなぐことや懸命に走りだんだん速くなっている自分を感じることを、同じチームの友だちと応援し合う充実感などを味わえるようにする援助を大切にしたい。

【「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」から関連する部分を探してみましょう】



【この事例を通して学んだことや生かしたいことを書きましょう】



Ⅱ-5

子ども理解を深めよう

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

1月下旬。小学校への入学を控え、あこがれや不安の気持ちを抱いている5歳児の姿が見られるようになってきます。5歳児担任のF保育者は、子どもたちが安心感をもって小学校へ進めるように、また、修了式までに自分の力や可能性を感じ、喜びが存分に味わえる経験をさせたいと願っていました。そこで、昼休みの時間に合わせて小学校へ出かけて行き、小学生と交流を楽しめるようにしました。

小学校の校庭にある園庭の遊具よりも一回り大きな雲梯に挑戦していると、体育館から小学生たちの声が聞こえてきた。小学校では、毎年2月に行われる縄跳び大会に向けて5年生が練習をしていた。

5歳児のN子は、普段から体を動かすことが大好きで、幼稚園でもよく縄跳びを楽しんでいた。最初は、5年生の様子を他の幼児たちといっしょに体育館の入口あたりで見ていた。5年生が大縄を跳ぶタイミングに合わせて頭を揺らしている。

F保育者が「もっと近くに行ってみる？」と誘うと、うれしそうに「行ってもいいの？」と聞き返すN子。「もちろんいいよ」と応えると、「行く」と言って近づいて行った。縄を回していた小学校の先生の近くまで行ったN子は、5年生が縄を跳ぶのに合わせてその場でジャンプした。先生がN子に視線を移すことはないが、「応援団が来たよ！みんながんばれ！」と5年生に激をとばす。

しばらくして、先生が「いっしょにやってみる？」とN子に尋ねた。列の端にいた5年生の一人が「先生、隣の（クラスの）〇〇さんの妹やで」と言う。「Nちゃんやる？いっしょにしよう」と言いながら、自分の前にスペースを空けてくれた。N子はその間に入った。

「さん、はいっ。」先生の合図はとても明快で、全身を大きく使って縄を回している。N子に合わせて縄を動かしているようにさえ見える。

幼稚園への帰り道、「楽しかった」とN子はいつもより興奮していた。

初めは少しためらっていたN子であったが、保育者の「もちろんいいよ」の声に背中を押され、広い体育館で長縄跳びに挑戦できた。このような経験や、小学校の先生や小学生に優しくしてもらった喜びは、N子にとって大きな価値がある。小学校入学への大きな期待となったであろう。体育館で長縄跳びの場面と出会ったのは偶発的なことであるが、保育者がねらいをもち、計画的に活動を位置づけているからこそ生まれた出来事だろう。幼児が日常では出会えない人と出会い、発見や驚き、感動や共感などの場面が生まれる。こうしたことが、小学校入学への期待につながっていくのである。

【話し合ってみましょう】

- ★ あなたの園では、5歳児の子どもたちが小学校入学への期待をもつために、どのようなことに心がけていますか？

N子が、T子とS子を誘っている。小学生と一緒に縄跳びをした日から、N子は複数の友だちといっしょに跳びたいと思っている。園庭の少し奥まったところで、長縄をほどこしている。

N子とS子が縄を回し、T子たち三人が跳んでみるが、タイミングはバラバラで着地の位置も不安定なため、なかなか跳びだせない。偶然跳び始められてもすぐにだれかが縄を踏んでしまう。N子は「もう一回いこう!」と言う。失敗すると、「おいしい」「もうちょっと」「さっきよりはええ感じ」と声をかけつつ挑戦していく。なかなかうまくいかないが、友だちとともに一つのことに向かうことそのものが楽しいのか、何度も挑戦する。

N子がS子に「Sちゃん、両手で回してみよう。」と言う。「分かった。こう?」とS子は縄を両手で持って見せる。

O男とZ男が近づいてきた。「『せえ、の、で、は』で跳んでみたら?」「ちょっと(僕たちに縄を)貸して」と言いながら、N子とS子と縄を交代する。「『せえ、の、で、は』の『は』のところで回し始めてな」と縄を回す格好をしながらN子が言う。

うまく跳び始めた。「やったー! 1、2・・・」しかし、4回目で縄を踏んでしまう。するとN子が「いいこと考えた」と言って、地面につま先で一本の線を描いた。

N子たちが連続して跳べるようになる日は、もうすぐだろう。修了を控えた時期、まだまだ、友だちと考えを出し合いながら何度も挑戦していく充実感を味わうこの過程が続くといいなと思う。

N子たちは、跳び方、タイミング手足の動かし方など、様々な視点からどのようにすると跳べるようになるだろうかと思いを巡らし、予想し、伝え合っている。O男とZ男が仲間に加わり、掛け声という新たな視点から考えを生み出そうともしている。跳んだ数を数えるなど、小学校教育の教科学習に直結する経験もあるが、遊びの中で必要感を感じて数えたり、数が増えていくことを喜びを通して数の感覚をつかむ等、そんな長い時間の中で培われる楽しさこそを大切にしたい。

平成30年より実施となる幼稚園教育要領等において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。5領域に基づいて、3歳児から遊びを通して幼児期にふさわしい総合的な指導を積み重ねることを通して、5歳児の修了時期に見て取れるように示された10項目である。いくつかを記す。

ア 健康な心と体

幼稚園生活の中で充実感や満足感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。

ウ 協同性

友達との関りを通して、互いの思いや考えなどを共有し、それらの実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様なかわりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとして考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

ク 数量・図形、文字等への関心・感覚

遊びや生活の中で、数量4などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりして、必要感からこれらを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。

これらを5歳児後半の姿を評価する手だてとし、幼児教育の教職員と小学校教員がもつ5歳児修了時の姿が共有化され、幼児教育と小学校教育との接続をより一層強化していきたい。

【話し合ってみましょう】

- ★ あなたの園の5歳児の子どもたちの中に見られる姿で、小学校に伝えていきたい姿はどのような姿ですか?

第三章

指導計画を立てよう



Ⅲ-Q1

指導計画をたてよう

なぜ、教育課程と指導計画の作成は必要なのですか？

幼児教育は、「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健全な成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長すること」を目的とする公の性質と小学校以降の生活や学習を培う「学校教育のはじまり」としての役割を有しています。

よって、教育を受ける者の心身の発達の段階に応じて、体系的、組織的、計画的に行われなければならないのです。

○ 教育課程と指導計画の意義

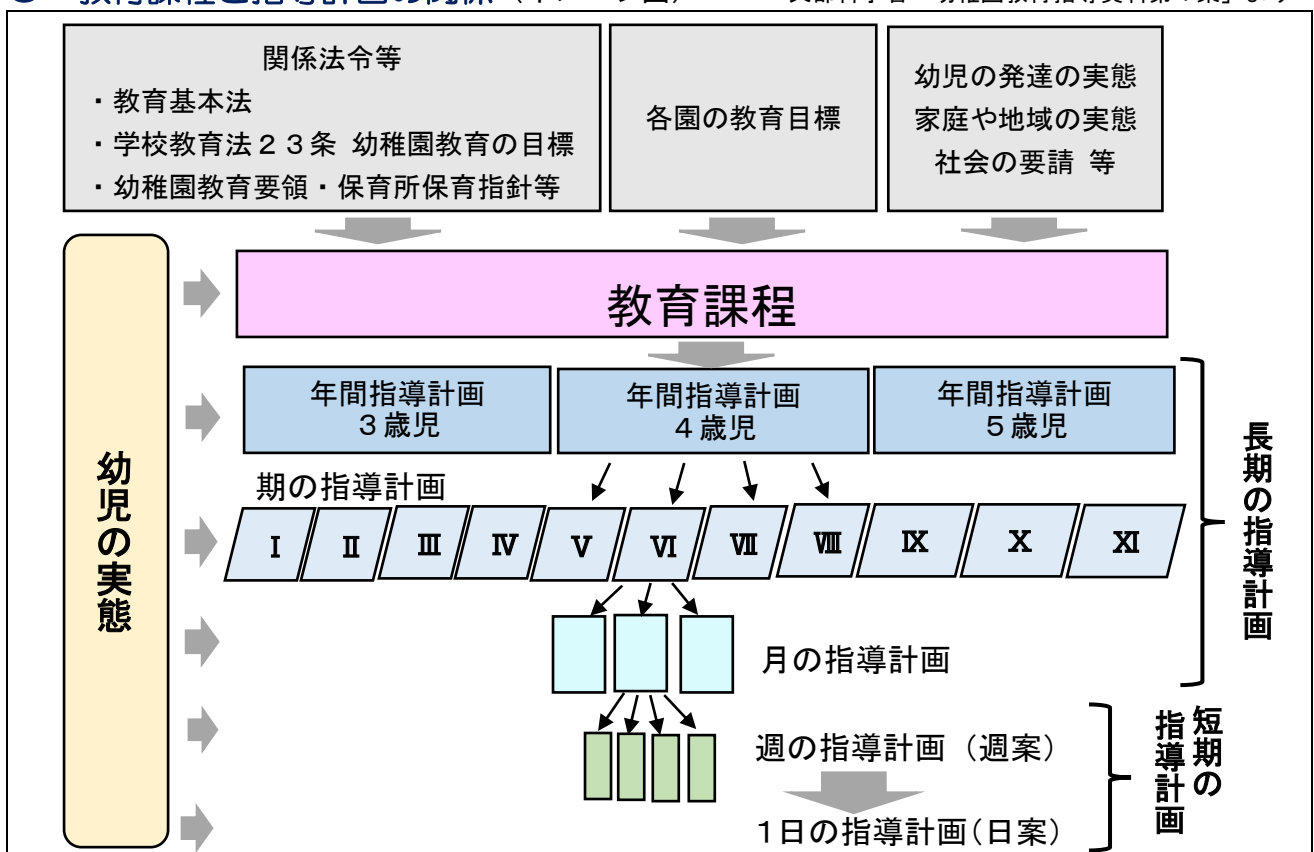
教育課程とは、その園における教育期間全体にわたって、園の教育の目的・目標に向かってどのような道すじをたどって教育をすすめていくかを明らかにしている全体計画です。つまり、園がどのような教育方針の下、入園から修了までの教育期間にどのようなことを大切に教育活動を展開していくかということを示すものです。

この教育課程の具現化に向けて、どのような時期にどのようなねらい・内容を持ち、どのような方法で園生活を展開させていくかを示すものが**指導計画**です。**長期の指導計画**は、年間を見通した指導計画で、幼児の発達の節目を捉えて年間を5期程度に分けたり、月ごとに分けたりします。各期について、幼児の発達の様子や毎年その頃に展開される遊びや生活の流れを思い浮かべて、幼児の発達を促すように、ねらい・内容、環境をどのように構成するかを記載します。

一方、週の指導計画（週案）や日の指導計画（日案）といった**短期の指導計画**は、長期の指導計画のもと生活を展開してきた中で見えた、実際の子どもたちの遊びの様子や、具体的な姿を捉えてねらいや内容を設定し、環境や保育者の援助について具体的に記載するものです。

○ 教育課程と指導計画の関係（イメージ図）

「文部科学省 幼稚園教育指導資料第1集」より



○ 幼児の発達と指導計画

幼児が望ましい方向に向かって発達していくということは、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「ねらい」に示された方向に向かって発達していくことです。一人一人の幼児に幼児教育のねらいが着実に実現されていくためには、幼児が必要な体験を積み重ねていくことができるように、発達の道筋を見通して、教育的に価値のある環境を計画的に構成し、適切な指導がなされることが必要なのです。

○ 環境構成と指導計画

幼児の活動は自然に生まれるわけではありません。周囲の環境に刺激され、幼児の内面から興味や関心が湧き出ることによって生まれます。そして、環境との相互作用が深まることによって幼児の活動はさらに展開していきます。よって、幼児の興味や関心が引き出され、思わずかかわりたくなり、さらに次々と活動を展開していくことができるように構成された環境が必要となります。

次ページからは、指導計画、特に一日の指導計画（日案）の作成について、ポイントや留意点などを記載しています。

参考にしながら、実際に一日の指導計画（日案）を作成してみましょう。



Ⅲ-Q2

指導計画をたてよう

明日の保育（日案）を考える時、大切なことは何ですか？

保育で大切なことは、「幼児期にふさわしい生活が展開されること」「一人一人の特性に応じた指導が行われること」「遊びを通して総合的な指導が行われること」です。

ですから、まずは「子どもの発達の実情を捉えること」、そして「ねらいと内容の設定」「ねらいや内容に沿った環境構成を考えること」などが大切です。

ここでは、保育を考える際の出発点となる「子どもの実態を捉えること」について示します。

今日の子どもの姿を振り返ろう

明日の保育の計画は、今日（この頃）の子どもたちの姿（育ち）を振り返ることからスタートします。遊びの様子や一人一人の姿、楽しんでいることやチャレンジしていることから、子どもたちの興味や関心、深まっているかわりや育ちつつあることを捉える場は、いろいろあります。

1 職員同士の会話の中で

（6月5日）

5歳児担任M保育者	最近、水遊びが盛り上がってきたね。 今日は、5歳児の男の子たちが砂場で、トイに車のおもちゃを置いて、水で流すことを楽しんでたわ。
4歳児担任A保育者	そうね。5歳児さんたち、たくさん集まって楽しそうだったね。
M保育者	特に <u>しんくん</u> がトイを長〜くつなぐことを頑張っていて面白かったわ。
A保育者	そうそう。 <u>しんくん</u> がつないだトイは、とても長くてびっくりしたわ。
3歳児担任I保育者	3歳児さんはその長いトイに魅かれて、水を何度も流していたの。 けれど、すぐに壊れてしまっていたね……。
M保育者	確かに！ <u>しんくん</u> 、ちょっと困っていたね。でも、 <u>あきらめずに何度もつないでいた</u> よね。 <u>試行錯誤しながら、トイをつないでいくことが、楽しかったんだ</u> と思うわ。
I保育者	明日も挑戦しそうね。3歳児さんがいっぱい水を流しても壊れない長いコース、できるといいね。
A保育者	もう少し、 <u>短いトイがあると面白いんじゃない</u> ？うちの園にあるトイは、子どもたちには長すぎるような気がしない？
M保育者	そうね、 <u>長さがいろいろで、持ち運びがしやすい方が、工夫できるかも</u> 。
園長	先生方の考え素敵だわ。思い切って <u>長いトイを切ってみたら</u> どうかしら？
M保育者	早速、切ってみようかな。

I・A保育者	私たちも手伝います。
A保育者	(切りながら) <u>ジャングルジムや築山の高低差を使ってみると、さらに試行錯誤が深まって、面白いコースができるかもしれないね。</u>
M・I・A保育者	明日のトイコースづくりが楽しみね。

職員室などで、同僚といっしょになにげなく交わす会話はとても楽しいものです。次のような大切な視点を意識すると、どんどん会話が弾み、明日の保育につながる会話になっていくようです。

子どもたちが、

- ★ 楽しんでいたこと
- ★ 興味や関心をもっていること
- ★ こだわっていたこと
- ★ 繰り返し取り組んでいたこと

※ 上記の視点などから、子どもたちの姿についてしっかり振り返りがなされると、ねらいや環境や援助の工夫へ、意識が向いていきます。明日の保育への見通しがもてる会話は、保育者にとって、とても大きな喜びです。

教員同士の関係の中に共感的で温かい雰囲気をつくることも、研修リーダーの大切な役割です。



2 写真から

子どもたちの生き生きした姿や遊びを見ると、つい写真におさめたくなることはありませんか？
心に残る場面の写真は、子どもの行動からどのようなことに興味や関心をもっているか、興味や関心をもったものに向かって、どのように自分の力を発揮したかを考えるのにとっても役立ちます。

次の写真を例にして考えてみましょう。

- ① 素敵だなあと思う遊びの写真や子どもの様子が分かる写真を選ぶ。

写真「5歳児 11月 どんぐりコースをつくったよ」から

- ② 写真の状況やこの様子にいたるまでの経緯など、写真について解説する。

「どんぐりを転がすために長い行列ができ、何度も転がしていたから」など

- ③ 人に吹き出しをふる。

(付箋などを使ってできるだけたくさん考え、その中からとっておきを選んでみましょう。その際、選択の理由を大切にしましょう。)



「5歳児 11月 どんぐりコースをつくったよ」

④ 吹き出しの根拠を、写真の中から見つけ出し、伝え合う。
 (目線が～、肩が～、足が～なっているなど、子どもの行動から)

△ うわあい！
うまく 転がったよ。

※ 繰り返し転がしていた5歳児なら、どんぐりが転がったことを喜んでいただけではないかもしれません。

「うまくできた！」
「できるようになった」という結果を捉えた言葉ではなく、子どもの目線等から楽しんでいることを想像しましょう。



わたしのどんぐり、
さっきよりも速く、
飛び出したぞ！
新記録の更新か？！

※ 瞬間の様子だけで捉えず、長い時間の経過の中で、子どもの興味や関心を捉えていきましょう。



「5歳児 11月 どんぐりコースをつくったよ」

ぼくも、〇〇ちゃんみたいに、真っ直ぐ転がせるといいなあ。でもまだ自信がないなあ……。

※ 目線は転がり出たどんぐりにありますが、少し表情が曇っているように見えます。繰り返し遊ぶ中で、転がる速さや進路や距離に願いをもち始めたものの、うまくいかないことを体験し、葛藤している？！

〇〇ちゃんのどんぐり、
ぼくの足元辺りまで、
来そうだぞ！その調子！
来い、来い！

※ 黄色い洋服の子と同じように目線はどんぐりの行方にあるようです。でも、右足に重心がかかっており、今にも駆け出しそうです。どんぐりの停止位置に興味があるのかな？



シールやビニルテープ等を使って、転がった距離や止まった場所が分かるように目印をつけると、子どもたちが転がし方やコースの仕組み等の試行錯誤をさらに楽しむようになるかもしれない！？

⑤ 写真についての説明をまとめる。

活動②より 写真の説明	<p>.....</p> <p>.....</p>
活動③④より 吹き出しの 根拠	
保育者とし ての思い	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

どんぐりコースをつくったよ！

わたしのどんぐり、
さっきよりも速く、
飛び出したぞ！
新記録の更新か？！



〇〇ちゃんのどんぐり、
ぼくの足元辺りまで、
来そうだぞ！その調子！
来い、来い！

一週間かけて完成したどんぐりコース。一番傾斜が急なコースには長い行列ができていました。

勢いよく飛び出すどんぐりに、子どもたちは大興奮！「〇〇くんのどんぐりは速いな！」と、友達と伝え合う姿がいっぱい見られました。転がる速さと距離の関係に気付き始めている様子もあり、記録を更新するたびに「新記録達成！」と大騒ぎ。楽しいひとときでした。

これからも、友だちとともにアイデアや考えを出し合ったり、認め合ったりする経験を大切にしていきたいと思います。

※ 保育者間での幼児の姿や行動の着眼点や根拠を学び合うことは、子どもを見る視点を広げます。幼児の思いや興味・関心から、どのような力を育てるか見定め、指導計画へつなげていきましょう。保護者へのお便りに活用することもできますね。

3 記録することから

5歳児担任のK保育者は、連日、紙飛行機を飛ばしている子どもたちの姿を捉え、喜びを感じていました。そして、遊びがさらに深まっていくことを願っていました。

そこで、丁寧に記録することから、

- ★ 子どもたちが楽しんでいることは何か
 - ★ 子どもたちの興味と関心は、どのような行動に表れているか
 - ★ どのような環境や保育者の援助から、興味や関心が増しているか
- について、しっかりと考察することから始めようと考えました。



※ 上記の視点等を参考にして、子どもたちの実態を捉えてみましょう。

5歳児 6月16日

給食後のひととき。

今日も、**ひろ**、**ゆう**、**たけし**、**しんすけ**が紙飛行機を折り、保育室で飛ばすことを楽しんでいた。すると、**ゆう**が「先生、扇風機をちょっと止めて。飛行機がうまいこと飛ばんのや」と言いに来た。保育室は2台の扇風機が回っていて、紙飛行機は風にあおられ、真っ直ぐ飛んでいなかった。

昨日、たくさんの飛行機が階段の踊り場に落ちていて、狙う的が欲しいのかなと思い、廊下に新聞紙を丸めて作った大小の輪をぶら下げてみた。

かのんは、最近、紙飛行機を折り始め、今日も一番大きい的に通そうと頑張っているが、飛ばすというより、玉入れのようにジャンプして紙飛行機を上を投げ上げている感じに見える。

「遊戯室に行ってみる？」と私が言うと、子どもたちは「行く行く！」
「どこまで飛ぶかやってみる！」と口々に言い、今まで作りためていた紙飛行機をロッカーから取り出してきた。周りの子どもたちも、その様子を見て自然に集まり、新しい広告で紙飛行機を折り直している。折り方があやふやな女兒は、男児に手伝ってもらいながら完成させていた。

遊戯室に着いた子どもたちは、思い思いに紙飛行機を飛ばし始める。
「先生、見て。上に投げたらあそこまで飛ぶんで」と**ひろ**。その横では、体を低くして力いっぱい投げている**たけし**の姿もあった。「どの投げ方がよく飛ぶんやろ？先生も研究しよ」と、私も混じり、飛ばしてみた。**かのん**は、広い遊戯室で手首を使ってすっと前に投げ、遠くまで飛ばせるようになっていた。

しばらくして「先生、競争しよう！ステージの上から投げたい」と、紙飛行機飛ばし大会が始まった。男児と女兒に分かれ、それぞれの紙飛行機が宙に舞う。上位3位まで遠くに飛んだ紙飛行機を順に発表すると、1位になった**ひろ**は、みんなから拍手され、にやりと笑う。「もっと、続きがしたい」雰囲気の中、降園時間が近づき、保育室へ戻った。

5歳児 6月16日

給食後のひととき。

今日も、ひろ、ゆう、たけし、しんすけが紙飛行機を折り、保育室で飛ばすことを楽しんでいた。^㉑すると、ゆうが「先生、扇風機をちょっと止めて。飛行機がうまいこと飛ばんのや」と言いに来た。^㉒保育室は2台の扇風機が回っていて、紙飛行機は風にあおられ、真っ直ぐ飛んでいなかった。

昨日、たくさんの飛行機が階段の踊り場に落ちていて、狙う的が欲しいのかなと思い、廊下に新聞紙を丸めて作った大小の輪をぶら下げてみた。

かのんは、最近、紙飛行機を折り始め、今日も一番大きい的に通そうと頑張っているが、飛ばすというより、玉入れのようにジャンプして紙飛行機を上に投げ上げている感じに見える。^㉓

「遊戯室に行ってみる？」と私が言うと、子どもたちは「行く行く！」

「どこまで飛ばるかやってみる！」と口々に言い、今まで作りためていた紙飛行機をロッカーから取り出してきた。周りの子どもたちも、その様子を見て自然に集まり、新しい広告で紙飛行機を折り直している。折り方があやふやな女兒は、男児に手伝ってもらいながら完成させていた。^㉔

遊戯室に着いた子どもたちは、思い思いに紙飛行機を飛ばし始める。

「先生、見て。上に投げたらあそこまで飛ぶんで」とひろ。その横では、体を低くして力いっぱい投げているたけしの姿もあった。^㉕「どの投げ方がよく飛ぶんやろ？先生も研究しよ」と、私も混じり、飛ばしてみた。かのんは、広い遊戯室で手首を使ってずっと前に投げ、遠くまで飛ばせるようになっていた。^㉖

しばらくして「先生、競争しよう！ステージの上から投げてみたい」^㉗と、紙飛行機飛ばし大会が始まった。男児と女兒に分かれ、それぞれの紙飛行機が宙に舞う。^㉘上位3位まで遠くに飛んだ紙飛行機を順に発表すると、1位になったひろは、みんなから拍手され、にやりと笑う。^㉙「もっと続きがしたい」雰囲気の中、降園時間が近づき、保育室へ戻った。^㉚

(例)

㉑ 親しい友だちといっしょに同じことに向かっていく楽しさを十分感じている。

㉒ 上手に飛ばせるように思考を巡らしながら自分たちで遊びを進めている。

㉓ 友だちのしていることに興味を示し、自分もやってみる中で、うまくいかないことを経験している。

㉔ クラスの友だちの様子に気付き、自分なりに参加しようとしている。

㉕ うまく飛ばしたいと強く願うようになり、どんどんやっていく中で、コツをつかんでいる。

㉖ 関心のあることに何度も挑戦していく中で、できるようになっていく喜びを感じている。

㉗ 遊びの本質を感じ取り、どのようにすれば面白くなるかを考えて行動に移している。

㉘ ルールを理解しながら、クラスみんなで活動することを楽しんでいる。

㉙ 友だちの技術の高さを認めたり、喜びを感じたりすることをクラスの中で素直に表現している。

㉚ 今日の遊びや活動を振り返り、充実感を感じるとともに、明日への期待をもっている。



※ 日々の子どもたちの姿を記録することから、子どもたちが経験したことが明らかになります。しかし、子どもたちのどのような姿に着目するか、着目した姿をどのように評価するかは、保育者によって異なります。

また、個々の子どもたちの姿から共通する姿を導き出せるようになるためには、園内研修等を通して、日々の保育の反省や評価を積み重ねていくことが重要です。

積極的に、子どもの様子を語り合ったり、記録を読んでもらって意見をもらったりする機会をつくり、視点を広げていきましょう。



Ⅲ-Q3

指導計画をたてよう

ねらいと内容はどのように設定すればいいのですか？

今日の生活や遊びの中から読み取った子どもたちの姿に、保育者の願いを込めて、ねらいと内容を設定します。

【ねらい】

幼児期に育てたい心情・意欲・態度などの育つ方向性を示したものです。

ねらいは、さまざまな経験を積み重ねてしだいに身に付いていくものですので、同じようなねらいが数日続きます。

【内容】

ねらいを達成するために、子どもたちがどのような経験をすればよいのか、今日の子どもたちの姿を思い浮かべ、それに沿って具体的に設定します。

子どもたちが経験する内容は、保育者の指導する内容となります。

よって、どんな経験を積み重ねるとねらいが達成できるか、子どもの視点から考えていくことが大切です。



ねらい・内容を設定しよう

「5歳児 6月16日の記録」から読み取った子どもたちの姿に、保育者の願いを込めて、ねらいと内容を設定してみましょう。

次のポイントで設定しましょう。

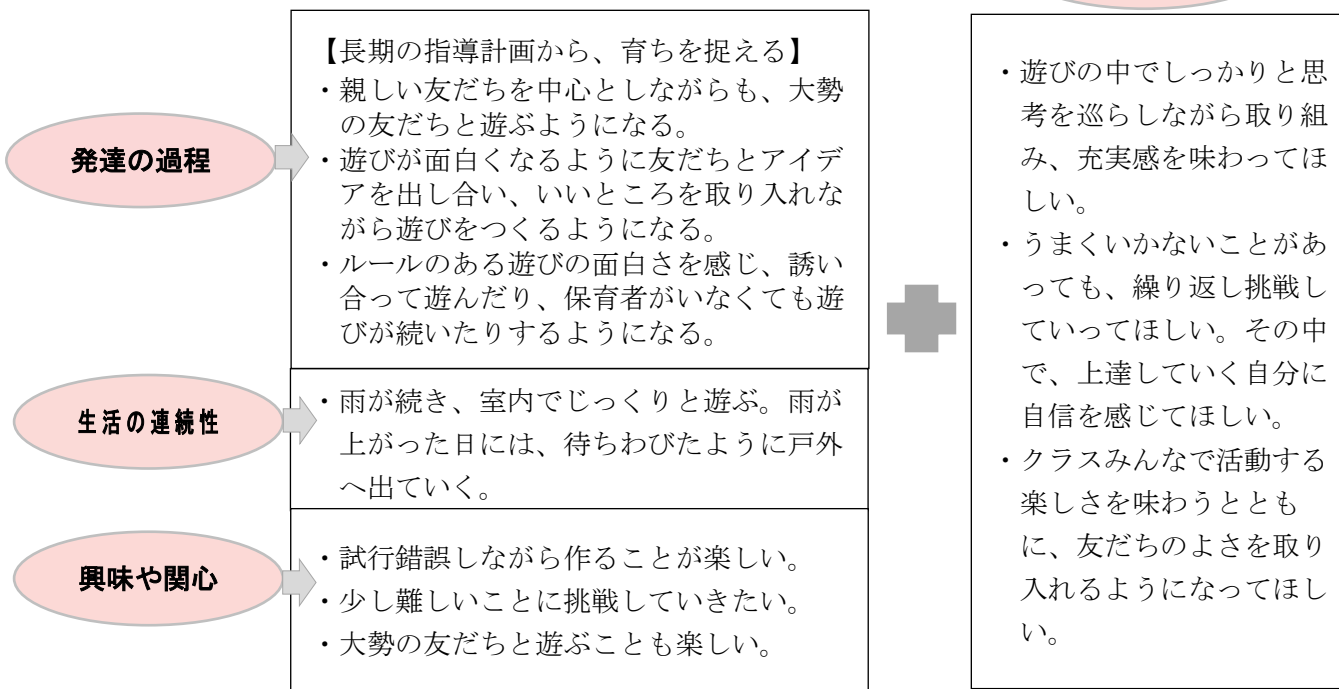
- ★ どのような育ちを期待するか
- ★ そのためにどのような経験を積み重ねていくことが必要であるか
- ★ 長期の指導計画から、ねらいがどのように達成されつつあるか

「5歳児 6月16日の記録」から

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 親しい友だちといっしょに同じことに向かっていく楽しさを十分感じている。 ㊧ 上手に飛ばせるように思考をめぐらしながら自分たちで遊びを進めている。 ㊨ 友だちのしていることに興味を示し、自分もやってみる中で、うまくいかないことを経験している。 ㊩ クラスの友だちの様子に気付き、自分なりに参加しようとしている。 ㊪ うまく飛ばしたいと強く願うようになり、どんどんやっていく中でコツをつかんでいる。 ㊫ 関心のあることに何度も挑戦していく中で、できるようになっていく喜びを感じている。 ㊬ 遊びの本質を感じ取り、どのようにすれば面白くなるかを考えて行動に移している。 ㊭ ルールを理解しながら、クラスみんなで活動することを楽しんでいる。 ㊮ 友だちの技術の高さを認めたり、喜びを感じたりすることをクラスで素直に表現している。 ㊯ 今日の遊びや活動を振り返り、充実感を感じるとともに、明日への期待をもっている。
-------	---

ねらい・内容へ

保育者の願い



ねらい(○)と内容(・)

- 自分のめあてに向かって試行錯誤を繰り返したり、友だちのよいところを取り入れたりしながら遊ぶ。
 - ・ 思う存分、いろいろな紙飛行機を作ることを楽しむ。
 - ・ より多くの友だちといっしょに、自分が折った紙飛行機を飛ばし試すことを楽しむ。
- クラスみんなで活動する楽しさを味わう。
 - ・ 友だちと紙飛行機を飛ばし合ったり、競い合ったりすることを楽しむ。
 - ・ 友だちに思いを聞いてもらったり、友だちの思いを聞いたりすることを楽しむ。

Ⅲ-Q4

指導計画をたてよう

環境構成や保育者の援助について考える時に、大切にすることは何ですか？

【環境構成】

環境構成とは、ねらいと内容を達成するために、必要なものを置いたり、工夫したりして、場や状況をつくっていくことです。ですから、

- ◎ 子どもたちが自ら興味と関心をもって環境にかかわり、満足感や充実感を味わえるように工夫すること
- ◎ 子どもたちが実現しようとする 것과保育者の意図の両方が重ね合っていることが、大切です。

【援助】

ねらいと内容を達成するために、一人一人の子どもたちが、自分の思いや考えを自分たちで実現していけるように支えていく保育者のかかわりのことです。ですから、

- ◎ 子ども一人一人のありのままの姿を温かく受け止め、心の動きに沿っていくこと
- ◎ 子どもたちの主体的な活動のために、遊びの仲間やアイデアの提供者、理解者や共感者など様々な立場に立つ中に、保育者の意図をバランスよく絡めることが、大切です。

環境構成を考える際の視点

- 遊具や用具、材料について
 - ・ 数はどれくらい？
 - ・ 量はどれくらい？
 - ・ 種類はどれくらい？
 - ・ 配置はどのように？
 - ・ 出すタイミングは（初めから）？
 - ・ 出し方は（一緒に探しながら）？
- 場所について
 - ・ どこに？
 - ・ 広さはどれくらい？
- 時間について
 - ・ いつから、いつまで？
 - ・ 途中で？
- 保育者の位置について
 - ・ どこに立つ？座る？ など

援助の例

- 子ども一人一人のよさや個性が十分に発揮できるようにする。
- 子ども一人一人の興味や関心を受け止め十分に組みこめるようにする。
- 子ども一人一人のやる気や意欲が醸成されるようにする。
- 子ども一人一人の気づきや発見を認め、ともに喜ぶ。
- 状況に応じて、保育者の気づきや発見を伝えていく。
- 子ども同士がつながるようにする。
- 困ったり迷ったりしている時は、思いを丁寧に聞き取り、一緒に考える。
- トラブルが起こった時には、自分や相手の思いに気づき、乗り越えていけるようにする。 など



環境構成と保育者の援助を考えよう

「5歳児 6月16日の子どもたちの姿」から設定したねらいと内容に基づいて、次の日（6月17日）の日案を立ててみましょう。

5歳児 6月17日（金）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてに向かって試行錯誤を繰り返したり、友だちのよいところを取り入れたりしながら遊ぶ。 ○クラスみんなで活動する楽しさを味わう。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・思う存分、いろいろな紙飛行機を作ることを楽しむ。 ・より多くの友だちといっしょに、自分が折った紙飛行機を飛ばし試すことを楽しむ。 ・友だちと紙飛行機を飛ばし合ったり、競い合ったりすることを楽しむ。 ・友だちに思いを聞いてもらったり、友だちの思いを聞いたりすることを楽しむ。
生活の流れ	予想される子どもの姿（○）と環境構成・保育者の援助（●）
8:30 登園する	
11:40 給食の準備をする	

〈日案の例〉

5歳児 6月17日(金)	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のめあてに向かって試行錯誤を繰り返したり、友だちのよいところを取り入れたりしながら遊ぶ。 ○クラスみんなで活動する楽しさを味わう。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・思う存分、いろいろな紙飛行機を作ることを楽しむ。 ・より多くの友だちと一っしょに、自分が折った紙飛行機を飛ばし試すことを楽しむ。 ・友だちと紙飛行機を飛ばし合ったり、競い合ったりすることを楽しむ。 ・友だちに思いを聞いてもらったり、友だちの思いを聞いたりすることを楽しむ。
生活の流れ	<p>予想される子どもの姿(○)と環境構成・保育者の援助(●)</p>
<p>8:30 登園する 着替える 帳面にシールを貼る</p> <p>好きな遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙飛行機づくり ・ままごと ・園庭で (サッカー、砂場、色水づくり) 	<p>○「今日は～しよう」とワクワクしながら登園してくる。特にひろ、ゆう、たけし、しんすけ、かのんは、すぐに昨日の紙飛行機の続きに向かうだろう。</p> <p>●楽しみにしている気持ちに共感するとともに、紙飛行機用の材料を準備しておくことで、工夫して取り組んでいくことへの意欲化を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>【サッカー】(園庭)</p> <p>○気の合う友だちを誘い合ってやり始める。まだまだボールを蹴ることが楽しくて、チームで競い合おうとする様子はない。</p> <p>●ボールを蹴ったり追いかけたりすることを、十分に楽しむ中で、偶発的に友だちと競い合う楽しさを感じる瞬間を大切にしていく。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>●自分や友達の飛行距離に興味をもち始めたらラインやドットなどの目印を付けることについて一緒に考える。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>●友達がつくる様子を見ながら作っていきけるように机を準備する</p> <p>●いろいろな大きさと厚さの広告と折り紙だけを準備しておく。画用紙等の別の素材は子どもたちと相談する。</p> </div> <p>【紙飛行機づくり】(遊戯室)</p>
<p>10:30 片づける 手洗い、うがい 朝の会をする (紙飛行機大会に向けて)</p>	
<p>11:00 みんなで楽しむ (紙飛行機大会)</p>	<p>○何度もつくったり、飛ばしたりしながら、紙飛行機の性能を高めていく。</p> <p>●保育者も楽しみながら、気付いたことを積極的に伝えていくようにする。</p>
<p>11:30 片づけをする</p>	<p>●友だちのいいところや工夫しているところを語り合う場を設定し、紙の素材や折り方や飛ばし方などの視点を増やしていきけるようにする。</p> <p>●友だちと工夫し合ったり、認め合ったりすることを十分楽しめるようにし、家庭や明日の保育につなげていく。</p>
<p>11:40 給食の準備をする</p>	

Ⅲ-Q5

指導計画をたてよう

保育をする際に大切にすることは何ですか？

指導計画（日案）をもとに、実際の保育に臨みます。

しかし、子どもの状態や偶発的な出来事や天候などによって、計画とは異なる状況や展開になることもあります。その際は、その場に応じた環境を再構成したり、時間の使い方を変えていったりする臨機応変さが必要です。

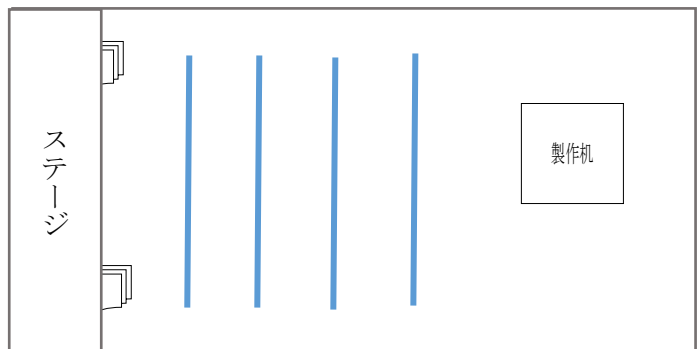
また何より、子ども一人一人の興味や関心、思いなどを理解し、子どもが自分らしさを発揮する中で育っていけるような援助を行うことが大切です。

環境の再構成をしよう

「5歳児 6月17日の遊戯室」の物的環境を例にして考えてみましょう。

昨日の子どもたちの姿から、
〈図1〉のような環境を構成しておいた。
自分の紙飛行機を飛ばす中で
細かい線よりも大まかな目印の
方がねらいやすそうだった。
自分なりの飛距離を求めること
から、友だちと競いたい子ども
たちが出てきた。

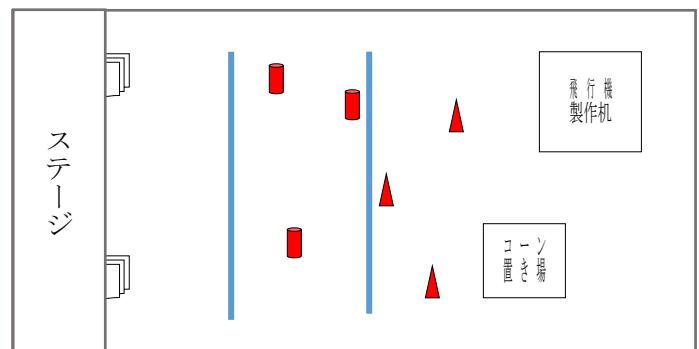
〈図1〉



再構成

そこで、〈図2〉のように、
○目印のラインを二本にした。
○自分の記録が分かるように、
名前入りの小さなコーンを準備して、自由に使えるようにした。

〈図2〉



子どもの自分らしさが発揮できる援助をしよう

6月17日の保育者の振り返りから、子どもの自分らしさが発揮できる保育者の援助について考えてみましょう。

6月17日

クラス全員で行った紙飛行機飛ばし大会。何度も飛ばしてみても折り直すおとは、**あかり、かのん、さち**の姿がとても印象的だった。

私も仲間に加わり、いっしょに折ったり飛ばしたりした。すると、思った以上に材料の紙の質や大きさ、羽の形や機体の重心、飛ばす角度や力加減など、工夫することが山ほどあり、奥が深いことに気付く。

やがて、女兒たちは「ひろくんのは、羽の先が持ち上がってたよ」「ゆうくんは、斜め上に向かって飛ばしてたよ」と気付いたことを伝え合い始めた。友達の意見を取り入れるとよく飛ぶようになったようで、大興奮。その喜びと面白さを感じて、より一層、伝え合いながら作るようになった。

まだまだ男児のように飛距離は伸びないが、自分の記録が少しずつ伸びていくことが嬉しくてたまらない様子。「明日は、もっと遠くまで飛ばしたい」女兒たちは思っているにちがいない。

★ 次のような援助を心がけましょう。

- 子どもたちとともに行動する中で、何度も繰り返し取り組んだり、こだわったりしていることを感じ取り大切にすることで、気付きを促す。
- 子どもたちの喜びや楽しさ、悔しさや悲しさに共感し、多様な体験ができるようにする。
- 子どもの発見や驚きに共感することで、子どもたちが伝え合ったり認め合ったりする姿を引き出し、友だちとのかかわりが深まるようにする。
- 子どもたちのやってみたい気持ちを大切に、十分できる時間と空間をつくる。



園生活の中には、喜びや楽しさを感じ思い切り笑ったり、泣いたりするような感動する出来事がたくさん生まれます。教師の予想をはるかに超えることも生まれます。そのどれもが、友だちや保育者、環境や教材との偶然で必然的な出会いから生まれた貴重なものです。そして、この時期だからこそ出会える出来事やその子だからこそ出会える出来事です。それらを大切にされた保育をしていきましょう。

第Ⅳ章

ベテラン保育者の方々へ



IV

ベテラン保育者の方々へ

新規採用保育者が育つとき

5歳児の学級は、あお組とみどり組の2クラスです。あお組担任は経験20年のT保育者、みどり組担任は今年採用されたばかりのY保育者です。

11月末、生活発表会を終え、子どもたちの中に表現活動への関心が高まっていました。子どもたちが自発的に表現を創りだしていく経験をさせたいと考え、T保育者はY保育者に「年中児や年少児を楽しませるクリスマス会をやってみよう」と提案しました。

初めての活動に少し不安な表情を見せるY保育者に、T保育者は「初めてだから不安よね。私も、そうだったわ。大丈夫、あお組とみどり組でいっしょにしましょう。」と声をかけました。

【考えてみましょう】

★ T保育者から「不安よね。私もそうだったわ」と言われたY保育者は、どのような気持ちになったでしょう？

子どもたちがあお組の保育室に集まりました。T保育者から提案を受け、子どもたちはやる気いっぱい。やってみたい出し物やゲームについて話し合いました。

両組の子どもたちが混じって、合奏、紙芝居、ペープサート、ボーリング、釣りゲームをグループで行うことが決まりました。

Y保育者は、なかなか活動に向かうことが難しいW男のいる、ボーリンググループと、釣りゲームグループに主にかかわることにしました。

しかし、マイペースのW男は、Y保育者の願いを無視して、戸外に出かけようとしています。また、他の子どもたちも、Y保育者が準備した材料と作り方で作ることを強いられているためか、活動を楽しめずにいます。

Y保育者はやっとのことで、W男を保育室に連れ戻してきました。W男は、なかなかボーリングゲームづくりに向かおうとしませんでしたが、やがて、広告を丸め始めました。

W男が、「先生、ボールができた。」とY保育者に見せにやってきました。W男の声がよく聞き取れなかったのか、Y保育者は「これ何？」と聞き返しました。するとW男は、さっとボールを背中に隠してしまいました。

そこに、T保育者がやって来て「Wさんのボール、先生にも見せてちょうだい。」と声をかけました。W男の表情が、ぱっと明るくなりました。W男のボールを手にしたT保育者は、実際にボールを床に転がし、「もう少し固くすると、ボーリングのピンがかってよく倒れるかもね。」と言いました。

W男は「うん。テープでぐるぐる巻くと固くなるかなあ。」と言いながら、勇んで製作コーナーへ向かいました。」

その日、職員室に戻ったT保育者が、Y保育者に「今日のボーリングと釣りゲームグループの様子はどうだった？何か困ったことはない？」と話しかけました。

すると、Y保育者から、W男の思いを受け止められなかったこと、信頼関係がうまくできないことの反省の言葉とともに、涙があふれ出しました。

【考えてみましょう】

★ あなたがT保育者だったら、Y保育者にどのように声をかけますか？

【ベテラン保育者の方々へ】

憧れの気持ちをもって保育者になったY保育者。だからこそ、W男の姿が気になってしょうがないのでしょうか。理想の保育者像を強く持っていればいるほど、子どもとうまく信頼関係を築けない現実とのギャップに苦しむものです。

実践は、このような保育者としてうまく振舞えないことの連続です。ですから、まず、T保育者のように、温かく問いかけ、耳を傾けること等によって、新規採用保育者が現実を受け止めて素直な思いを表出できるようにすることが大切です。

保育者として上手く振舞えないこの時期はとても苦しい経験です。しかし、保育者になったばかりの時期に、解決していく過程において「やっぱり、保育は面白い。子どもといっしょに過ごすのは楽しい。」と実感できる経験をしてもらいたいものです。この経験と実感こそが、今後、自分の保育観を自分自身で切り拓いていく保育者を育てることにつながっていると考えます。

園長をはじめベテラン保育者は、このような新規採用保育者の不安を温かく受け止めながら、明日の保育の見通しと希望もてるようにかかわり、できた手ごたえをともに喜び同僚性を育んでいきましょう。

おわりに

乳幼児期は、生涯にわたる生きる力の基礎が培われるかけがえのない時期であり、幼稚園や保育所、認定こども園において、子どもたち一人一人が、豊かに感性や表現力、道徳性や社会性などを育み、自らの手ごたえの中で自らの基礎を踏み固めていくことができる環境構成や保育者のかかわりが重要です。

同時に、子どもたち自身が自らの手ごたえを確かなものとしていく過程は多様かつ長期にわたるため、瞬時の援助と長期の援助の関係性から適切な援助を行っていくには、保育者の高い専門性が求められます。

だからこそ、各園において、体系的、組織的、計画的な教育・保育を実現する中で、保育者の同僚性を高めることを通じて保育者の専門性を高め、さらには、専門性を高めることを通じて同僚性を高めるという往還を生み出すことが大切となります。

本書は、各幼稚園や保育所、認定こども園の保育者がともに幼児理解を深めたり、有効な指導計画をつくったりしていく園内研修の参考となるよう、それらの方法や手順などについて具体例を示しながら編集されています。

それぞれの幼稚園や保育所、認定こども園の実態に合わせて工夫しながらご活用いただき、日常の保育の充実に向けた園内研修等の手がかりとしていただくと幸いです。

また、本書を作成するにあたり、快く現場の実践例を提供いただいた各園の保育者の方々や、貴重なご意見をいただいた香川大学の片岡元子准教授、幼児教育スーパーバイザー永田洋子先生、そして本書を発案、企画、執筆した桑原育子主任指導主事に深く敬意と感謝を申し上げますとともに、本書を通じて、子どもたちと保育者の方々がときめく保育が展開され、香川に育つ子どもたちが、生き生きと心身ともに健やかに成長することを心から願っております。

平成29年3月

香川県教育委員会事務局義務教育課長
課長 矢木澤 崇

